

英 語 科 授 業 案

日 時	平成 28 年 2 月 22 日(月) 6 校時
生 徒	2 年 C 組 男子 15 名 女子 17 名 計 32 名
授業場	2 年 C 組教室
授業者	吉 岡 康 一 朗

1 単元名 *Sunshine English Course 2* POWER-UP Writing 3 「自分の考えをまとめる」

2 単元の目標

与えられたテーマについて、英文を複数つなぎ合わせながら、自分の考えを論理的に相手に説明することができる。

3 単元について

(1) 単元観

21世紀に入り、社会は急速にグローバル化が進み、新しい知識・情報・技術が求められる「知識基盤社会」と言われるようになって久しい。またそのような社会では、多様な言語や文化、価値観を持つ人々との交流や協働の機会が増えることから、多様性を生かして、問題を解き、新しい考えを創造できる力が重要とされる。2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、現在英語を学習している児童・生徒が社会に出て活躍することが期待されていることは言うまでもない。

英語科は外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う教科である。

学習指導要領においては、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと、読むこと」を通じて得た知識等について自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと、書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導の充実が求められている。「書くこと」においては与えられた語句や文を書き写すことができるだけでなく、自分の考えなどを書くことが重視されている。

本単元では、与えられたテーマについて、既習事項を活用してまとまりのある英文で表現させる。その中で自分の考えを持ち、英文を複数つなぎ合わせながら、自分の考えを論理的に説明できる力を培うことをねらいとしている。また、新出の文法事項を扱うのではなく、これまでに学習した接続詞(I think that, because, soなど)や比較表現(比較級, 最上級, 同格), to不定詞などの既習事項を駆使して、自分の考えに説得力をもたせるために、思考力を働かせたい。

また、第2学年の終末には「賛成意見や反対意見を言おう」という課題が設定されており、簡単なディベートをする力が求められる。したがって、本単元はその基礎となる単元でもあり、自分の考えを、根拠を持って説明できる力の必要性を認識させたい。

相手に自分の考えや気持ちを正しく伝えるためには、自分の意見をただ言うだけではなく、筋道を立てて説明したり、根拠を示したりして、相手を納得させる必要がある。本単元の学習を通して、他を納得させる説得力のある意見を構築するための方略や表現力を身につけさせたい。さらに、生徒たちが主体的にテーマ(課題)と向き合い、意欲的に意見を考え、伝えようとする姿を目指す。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

以上のことを踏まえ、本単元では、以下の2点を手立てとして単元・授業を構築する。

単元における手立て

- A** 単元において、「相手」や「言語使用場面」および「コミュニケーションの目的」を意識した課題を設定する **(小中共通の手立て)**

単元に、具体的に「相手」や「言語使用場面」および「コミュニケーションの目的」を意識した課題を設定することで、思考力を働かせる場をもたせることができると考える。つまり、目標とする姿や課題を達成するために必要な知識や技能を既習事項から活用することで自ら思考し、主体的に課題と向き合うことができると考えた。

本単元では、教科書にある“Which do you like better, summer vacation or winter vacation?”というテーマについて自分の考えを相手に説明する方法について学ぶ。さらに、身近な話題として釧路市が観光立国ショーケースとして選ばれたことに触れ、世界に釧路の良さをアピールするという課題を設定することで、伝える「相手」を意識し、その相手に釧路の良さについて論理的に「説明する(場面)」という「目的」を持たせる。

授業における手立て

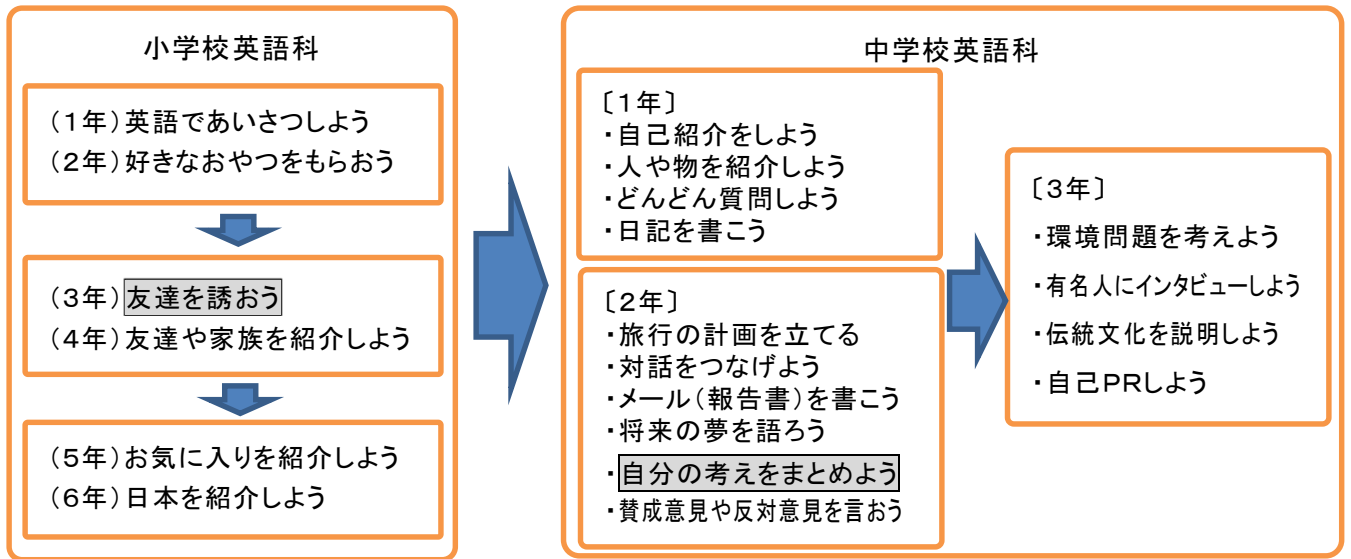
- B** **協働学習の場において、多角的・多面的に吟味するための発問や資料を提示する**(研究変数)

言語習得の過程において、実際に英語を使用することは必要不可欠である。その際、ただ言語を使用するのではなく、ペアやグループにおいて課題(目的)を達成するために行う協働学習は欠かせないと考える。つまり、「単語や熟語、文法事項などを用いた形式的な言語使用ができる姿(消極次元)」から、「学習の意義や目的を自覚した上で、習得した知識の中から言葉を選び、自分の考えを表現したり、相手の立場を踏まえて、具体的な場面や状況に合ったコミュニケーションを図ったりできる姿(積極次元)」に変容させるには、生徒たちが主体的に課題と向き合い、他者の考えや気持ちを理解した上で、自分の考えや気持ちを伝えるために表現を吟味し工夫をすることが必要であると考え。そのため協働学習の場において、生徒に新たな視点を持たせ思考を働かせるような発問や資料を提示する。

本時においては、“What are good points of Kushiro?”について自分の考えを相手に論理的に説明するために書く活動を設定する。その際、釧路の良い点をただ説明するだけではなく、「なぜそれが良いと思うのか」「例えば相手はそこで何ができるのか」「何が強調できるのか」「もっと詳しく教えて」といった発問を投げかけ、自分の考えを相手により詳しく伝えるために内容を再考し、表現の幅を広げさせる手立てを講じたい。

3. 小中連携による研究との関わり

(1) 小学校英語科との関わり（自分の考えや気持ちを伝える活動のつながり）

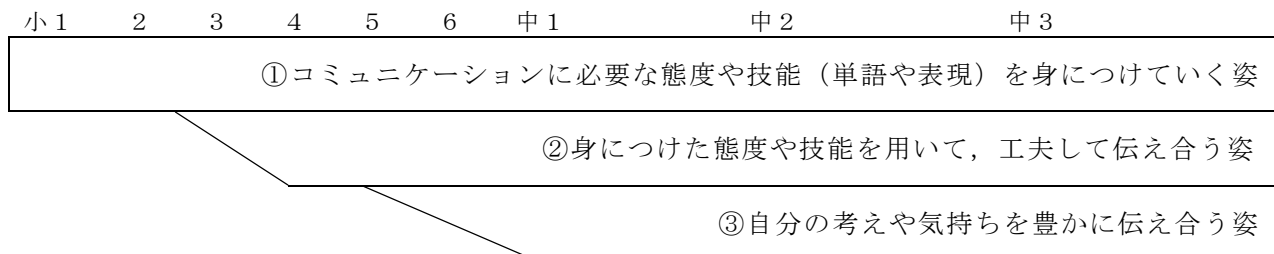


(2) 小中9年間で育む「互いの考えや気持ちを豊かに伝え合うことができる児童生徒」の姿
 2年次までの小中連携研究において、教科主題を「自分の考えや気持ちを豊かに伝え合うことができる児童生徒」とし、「伝える相手を明確にした課題設定」を共通の手立てとして研究を進めてきた。成果としては、児童生徒が学習に見通しを持つことができ、課題の達成に向けて伝える相手や目的を意識して適切な表現を選ぼうとする姿勢が見られるようになってきたことがあげられる。

今後の方向性として、小中で下図のような児童生徒の育成を目指すために、それぞれの発達段階や単元に応じて以下の手立てを元に研究を推進していく。

〈小中共通の手立て〉
 単元において、「相手」や「言語使用場面」および「コミュニケーションの目的」を意識した課題を設定する

小学校英語（活動型） 《年間 17 時間》	小学校英語（教科型） 《年間 35 時間》	中学校英語科 《年間 140 時間》
--------------------------	--------------------------	-----------------------



5 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識理解
ア. 間違いを恐れず積極的に自分の考えや理由を書こうとしている。 イ. 相手に自分の考えを積極的に伝えようとしている。	ア. 自分の考えや理由をまとまりのある文で書くことができる。 イ. 既習事項を活用して、理由や根拠を示して書くことができる。	/	ア. 考えを述べる際の記事構成が身に付いている。

6 単元計画 (全3時間)

時	学習事項	主な学習活動	評価規準			
			関	表	理	知
1	○自分の考えを伝えるための文章構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを相手に適切に伝えるために必要な要素を考える。〔主張・理由・構成〕 教科書のモデル文を読み、文章構成を理解する。 “Which do you like better, summer vacation or winter vacation?”について自分の意見とその理由を考える。 マッピングを用いて考えを広げ、自分の考えを書く。 	ア	ア	/	
課題「釧路の観光大使になりきって釧路の良さをPRしよう」 A						
2 本時	○既習事項を論理的につなぎ合わせて英文を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> “What are good points of Kushiro?”についてマッピングを用いて考えを広げ、釧路の良いところを書く。 理由に説得力を持たせることを意識し、理由や表現を吟味し合う B 釧路の良いところやその理由について英語で文章を書く。 	ア	イ	/	
3	<ul style="list-style-type: none"> 互いの考えを伝え合う。 他者の考えに対して感想を書く。 振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表し合い、他者の考えを聞いたり読んだりする。 他者の考えについて、自分の感想を英語で書く。 単元の振り返りを行い、できるようになったかどうか自己評価を行う。 	イ	イ	/	ア

7 本時案

(1) 本時の目標

“What are good points of Kushiro?”について、既習事項を用いて、PR を伝える相手を納得させることを意識しながら、自分の考えと理由を英語で書くことができる。

学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ	【評価方法】備考
課題「釧路の観光大使になりきって釧路のPR文を書こう」 A		
<p>1. 与えられたテーマについて、マッピングを用いて釧路の良いところを書き出すことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒の予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・涼しい(It is cool.) ・夏祭りが楽しい(Festivals are fun.) ・花火がきれい(Fireworks are beautiful.) ・自然が多い(a lot of nature) </div> <p>2. 会話で説明した釧路の良いところについて発表することができる。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>Kushiro is a good place</p> </div> <div style="margin-right: 10px;"> <p>cool</p> <p>nature</p> <p>festivals</p> <p>fish</p> </div> <div style="margin-right: 10px;"> <p>Why?</p> <p>For example?</p> <p>Tell me more.</p> </div> </div> <div style="margin: 5px 0;"> <p>【相手を納得させるためには？】</p> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 比較 (強調) 具体例 </p> </div> <p>3. 書き出した中から3つ選び、ペアで理由について英語で会話することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【会話例】</p> <p>A: What are good points of Kushiro?</p> <p>B: First, it is cool.</p> <p>Second, there is a lot of nature.</p> <p>Last(Third), fish is very delicious.</p> </div> <p>4. ペアで互いに相手の理由に対して問い返しながら、考えをより詳しく説明することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【例】 Fish is very delicious. Tell me more.</p> <p>Kushiro has “Washo market”.</p> <p>You can buy fresh fish there.</p> <p>Katte-don is one of the most delicious food in Kushiro.</p> </div> <p>5. ペアで会話した内容について英語で自分の考えをワークシートに書くことができる。</p> <p>6. 本時の学習を振り返り、学んだ表現やわからなかった表現を WS に記入することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【例】「勝手井」を英語で説明したかったが何て言えば良いかわからなかった。</p> </div>	<p>○“What are good points of Kushiro?”</p> <p>□マッピングを用いて釧路の良いところを書き出してみよう</p> <p>□できるだけ英語の表現 (単語も可) で書き出そう。</p> <p>○“What are good points of Kushiro?” 釧路の良いところはどんなところですか。</p> <p>○「どんな相手に向けてPRしているの。」 「なぜ涼しいのが良いのですか。」 「例えば？」 「もう少し詳しく教えて。」 B</p> <p>△「相手を納得させるためにはどんなことが必要だろうか。」</p> <p>□ペアで自分たちの考えた釧路の良いところから3つ選び、相手に釧路のよさを話してみよう。</p> <p>□ペアで互いの理由について問い返しながら、考えを詳しく伝え合おう。(ペアを替えながら数回行う)</p> <p>□良さを詳しく聞くために問い返してみよう。</p> <p>【Why? For example? Tell me more.】</p> <p>□元の席に戻り、自分の考えを英語で書いてみよう。</p> <p>○今日の授業を振り返って、相手から学んだ表現を付け足し、相手にうまく伝えられなかった表現に印をつけておこう。</p>	<p>個人【WS】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WS配布 ・英語で会話するためにもできるだけ英語で書かせる <p>全体【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えを全体で共有し、より詳しく考えさせるための発問をする。 <p>ペア【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書かせる前に即興で話す活動を取り入れる ・考えを述べる際の構成を確認する <p>ペア【観察】</p> <p>※協働の場において互いに相手に問い返すことによって考えを深めさせる。</p> <p>個人【WS】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WS回収